

令和6年度三田市高校生議会 質 問 書

【質 問 者】 10番 三田学園高等学校 1年 江川 心悠（えがわ こはる）

【担 当 課】 子ども・未来部 子ども育成課

【答弁予定者】 市長

【質 問 事 項】 空き家を活用した教育施設について

【質 問 内 容】

10番 高校生議員の三田学園高等学校1年の江川 心悠です。

私は中学受験を経て質のいい教育を受けるためには多額の投資が必要だということを知りました。そこで、公共の施設として放課後に利用できる教育施設を作ることはできないかと考えました。また、空き家問題が高齢化や人口減少とともに深刻になっていくという懸念から、空き家を活用した施設にするのはどうかと考えました。

現状、三田市の空き家問題に関して、来年度以降は高齢化率が全国を上回る見込みで、今後空き家の増加が予想されます。また、三田市の特徴として用途の定まらない空き家が多い状況にあります。教育に関して、三田市のHPを見ると、中高生の勉強場所に関して、自宅以外でも勉強する人は8割を超えていました。公共施設を利用している人は二割ほどでした。集中するためという理由が主な一方で、自宅が勉強できる環境ではないという回答もわずか2%ながらみられました。

そこで、私は、勉強を通じて交流できるスペースを、空き家を活用して作ることを提案します。勉強は誰しものがかかわっていることなので、交流の材料として最適だと思います。また、三田市で行われているこうみん未来塾で講師をしてくださっているような方や地域の学生を講師として、たとえば複数の教科を組み合わせるなど、学校にはない授業を行うこともできると思います。資金援助や講師・参加者を集める効果も見込める SNS の活用も考えています。私は三田市が学生から愛される街になればいいなと思っています。ぜひ、ご意見をお聞かせください。

【答 弁 内 容】

私からは、議員ご質問の「空き家を活用した教育施設について」お答えします。議員から、空き家を活用して勉強を通じて学生が交流できるスペースを作るご提案がありました。

市は空き家対策として、空き家の流通・循環をスムーズに進めるため、空き家バンクの運営や住まいの相談等を実施していますが、市が空き家を学習・交流スペース等を備えた公共施設として新たに整備するためには、目的や設置場所、費用対効果も含めてその必要性を検討していく必要があります。また、設置に関しては、当該物件の所有者の意向や都市計画といったまちづくりのルール、建築関係法令の基準などを守っていただくことで空き家を利活用することは可能であると考えます。

一方で、学びを通じた交流ができるスペースや学校にはないような学びの

場があることは、学生の皆さんに三田への愛着を持っていただくきっかけにもなり、意義のあることと考えられます。

市では、より主体的な学びを实践できる場の一つとして、市内高校と市の共催で、学内のクラブ活動や探究授業で得た知識を子どもたちに教える講師として参加できる講座を開催しておりますので、積極的にご参加いただきたいと思えます。また、多世代交流館シニアユースひろば等の既存施設の交流の場としての機能充実等についても、学生の皆さんからご意見をいただきたいと考えております。

なお、今後、空き家が増加してくる中で、それらを活用した学習支援や交流スペースの運営等に民間団体の方々が取り組まれる場合の支援については、検討してまいりたいと考えておりますので、議員のご理解を賜りますようお願いいたします。